

(3)

「名古屋城（天守閣・本丸御殿）の価値」最終版

名古屋城(天守閣・本丸御殿)の価値

	整備のあゆみ	価 値	課 題
名古屋城 全体	<p>① 築城から幕末まで ・慶長 17 年大坂豊臣への備えとして築城</p> <p>② 陸軍所管期 ・兵舎建設などのため多くの建物が取り壊し</p> <p>③ 名古屋離宮期 ・修復と実測図作成</p> <p>④ 名古屋市移管から焼失まで ・昭和 5 年御殿及び城郭建造物 24 棟国宝指定 ・国宝第 1 号 ・昭和 7 年約 4 万 4 千坪史跡指定 ・戦災により天守・本丸御殿などを焼失</p> <p>⑤ 戦後復元整備期 ・昭和 25 年西南隅櫓など重文指定 ・昭和 27 年特別史跡指定 ・重文建造物の解体修理、石垣の修復 ・天守閣のSRC造による復元(歴史博物館) ・史実に基づく本丸御殿の復元</p>	<p>① 周囲を巡らす石垣・土塁が残る ・大都市の中心に位置していながら原状をほぼとどめる ・大名庭園の遺構が残る ・日本を代表する近世城郭遺構</p> <p>② 名古屋のシンボル ・貴重な歴史的遺産 ・都市のランドマーク ・文化観光資源 ・市民の憩いの場</p> <p>③ 戦後に残る重文指定の建造物等 ・戦火に遭いながら 6 棟の建造物が残存 ・疎開していた障壁画など 1,047 面が重文 ・外観復元された天守閣 ・木造復元された本丸御殿</p>	
現天守閣	<p>① 前史 名古屋城創建期～下賜～焼失 ・創建当時、最新の設計と技術の粹を集め、近世城郭建築の代表例 ・創建以降、何度も改修し存続 ・明治 12 年永久保存と決定 ・昭和 5 年名古屋市に下賜、旧国宝指定 ・昭和 6 年一般公開開始 ・実測調査とガラス乾板写真撮影 等</p> <p>② 焼失～復興機運醸成期 ・昭和実測図等の史資料が豊富 ・戦火を被りながらも石垣が残る ・再建にかける市民の願いと機運醸成 ・他城郭の復興機運 等</p> <p>③ 天守閣再建期 ・当時の工法(ケーソン基礎) ・金シャチの再生 ・昭和の全国的な城郭再建ブーム 等</p> <p>④ 天守閣再建後～活用期 ・現天守閣の設備、展示、イベント等の活用</p> <p>⑤ 天守閣の現状 ・耐震等各種調査結果 ・全体整備計画の変遷と天守の位置づけ ・市民の機運醸成や名古屋市の取り組み ・公募型プロポーザル方式 等</p>	<p>① 名古屋城の景観の継続 ・都市のランドマークとして外観復元 ・天守閣として築城以来の景観を継承 ・都市を展望できる建物</p> <p>② 市民の機運醸成の高まりによる再建 ・築城以来の石垣が戦火の中に残った ・市民による寄付イベントの開催 ・再建総事業費(約 6.4 億円)の約 3 割(約 2 億円)の寄付 ・名古屋市政 70 周年の目玉事業 ・愛知県の観光文化の中心地を目指す</p> <p>③ 天守閣の再建と建築技術 ・歴史博物館として名古屋城を再現 ・昭和 30 年代の建築技術による建設 ・巨大建築物(ケーソン基礎)の建造技術 ・戦後全国の復興天守の先行事例</p> <p>④ 歴史博物館としての活用 ・内部空間は近代的な整備、歴史や文化を学習する場 ・重要文化財の期間限定展示、展示収蔵施設の機能 ・博物館相当施設に指定(昭和 37 年)</p> <p>⑤ 貴重な戦争遺構 ・戦火を受けた石垣</p>	<p>① コンクリート復元の限界性 ・外観は焼失前に近いが、内部は近代的な施設 ・焼失前天守の内部空間とはなっていない</p> <p>② 天守閣の耐震性能 ・耐震対策調査実施(平成 22 年度) ・現行基準を著しく満たさない ・コンクリート中性化進行により耐久性が低下 ・耐震補強を行っても概ね 40 年程度の寿命</p> <p>③ 天守台石垣 ・石垣の健全性評価実施(平成 24 年度) ・天守台石垣の一部はらみ出し ・戦災による石材の劣化</p>
本丸御殿 (復元)	<p>① 前史 名古屋城創建期～下賜～焼失 ・慶長 20 年に藩主の御座所として建立 ・寛永 10 年の増築後、將軍御成御殿として管理 ・近世城郭御殿の最高傑作と評価 ・陸軍第三師団の本部、離宮 ・昭和 5 年に名古屋市に下賜、同年旧国宝指定 ・下賜直後に名古屋市が実測図作成 ガラス乾板写真撮影 ・障壁画等を疎開</p> <p>② 焼失～復興機運醸成期 ・焼失した御殿跡の焼土を除去、礎石を保護 ・昭和 45 年頃より本丸御殿再建の声 ・昭和 60 年頃市制 100 周年記念の目玉事業として再建熱高まる</p> <p>③ 本丸御殿再建期 ・積立基金の設置 ・障壁画復元模写開始、発掘調査の実施、関連資料の収集 ・復元工事着工(平成 21 年 1 月～)</p> <p>④ 本丸御殿再建～活用期 ・第 1 期一般公開(平成 25 年度) ・第 2 期一般公開(平成 28 年度) ・全体公開(平成 30 年度)</p>	<p>① 名古屋城の再生を図る ・本丸の空間に天守閣と御殿が一帯となって再現 ・名古屋の新たなシンボル</p> <p>② 史実に忠実な復元 ・昭和実測図やガラス乾板写真等の史資料に基づき、史実に忠実な復元を実現 ・旧来の工法、材料等による復元</p> <p>③ 市民の協力 ・民間による設立基金への寄付</p>	